

ニンジン(セリ科ニンジン属)

ニンジンの発芽適温は15〜25度で発芽には10度以上、生育適温は18〜21度です。緑植物香化型といい、ある程度の大きさになり、低温に遭遇すると花芽が形成され、その後の長日と高温でとう立ちが始まる野菜です。

「品種」春まき用にはとう立ちがしにくい品種を選びましょう。どんな土壌にも適し、作りやすい「向陽二号」(タキイ種苗)、草勢が強く、芯まで鮮紅色になる「ちはま五寸」(横浜植木) などがあります。なお、暖地向きの「黒田五寸」はとう立ちの早い品種です。

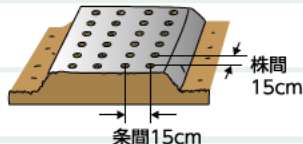
「畑の準備」種まき2週間前に1平方メートルあたり苦土石灰100gをまき、30cm程度の深さに耕します。1週間前に、化成肥料(NPK各成分で10%) 100〜150gと完熟堆肥2〜3kgを施し、土とよく混ぜておきます。

条間15cm、株間15cmなどの穴開きマルチ資材の規格に合わせた70〜80cmのベッド幅を作ります。マルチは早めに張って地温を上げておきましょう。

「種まき」温暖地では1〜2月から種まきができますが、家庭菜園では3月まきが安心です。穴開きマルチでは、1穴に5〜6粒まきます(図1)。

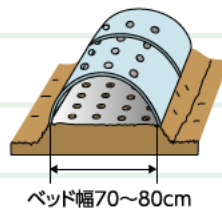
「トンネルの設置」換気作

図1 種まき



業を省力化するには穴開きのトンネル資材(農ポリ)を選ぶと良いのですが(図2)、普通の農ポリでは生育に従って裾を上げて換気をします。さらに、トンネル内の茎葉が茂り、いっぱいになればトンネルを外します。

図2 トンネルの設置



「間引き」1回目は本葉2〜3枚のときに2〜3本、2回目は5〜6枚のときに一本立ちにします(図3)。

「土寄せ」間引きと同時に土寄せを行い、さらに収穫期近くには、根の肩の部分にさらに土寄せして、根が緑に着色するのを防ぎます(図4)。

「収穫」根の径が4〜5cmに肥大した株から順次抜き取ります。太り過ぎて裂根しないうちに収穫をします(図5)。

5)。裂根は急激に肥大する生育後半、畑が乾燥または過湿となる水分条件で起きやすいものです。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

図5 収穫



図4 土寄せ

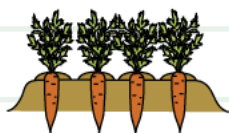
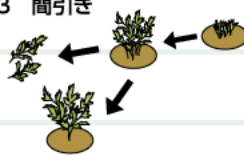


図3 間引き



栽培計画

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
トンネル栽培 春まき (三寸ニンジン)		○		①								
露地栽培 春まき (三寸ニンジン)			○		①							
露地栽培 夏まき (三寸ニンジン)							○				①	
露地栽培 夏まき (五寸ニンジン)							○					①

○ 種まき ○ トンネル被覆 ① 収穫 ミニンジンはこの作型でも栽培できる

(寒・高冷地では種まきを15〜20日遅れとする)



化成肥料8・8・8



穴あき黒マルチ 95cm x 50m

〈商品紹介〉

土壌適応性は肥よくな砂壤土が最適です。土は有機質に富み、通気性があり、保水・排水がよく、灌水や強い雨の後表土が固くしまらない土質が適しています。

ニンジンには寒さにあたるととう立ちしやすいので、とう立ちの遅い晩抽性品種を選ぶのも重要なポイントです。冬は、夏まきに比べて15倍ほどの日数がかかりますが、病害中の心配が少なく、無農薬での栽培にも挑戦できます。

JAグリーン津店が教える! ニンジン栽培のポイント